

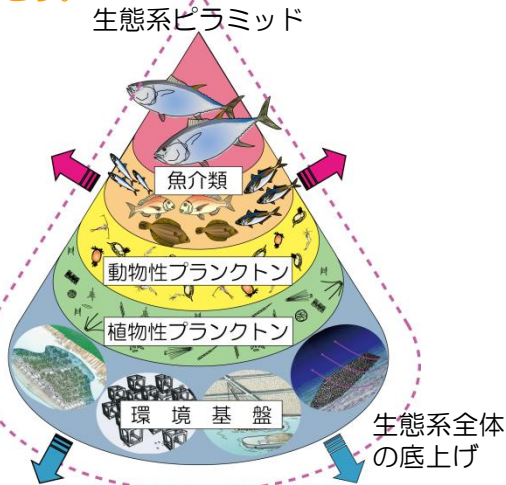
水産環境整備の推進に向けて（基本方針）

背景

- ・ 漁業生産量はピーク時の約半分
- ・ 資源水準の低迷
- ・ 藻場・干潟の大幅な減少
- ・ 貧酸素水塊の発生、底質の悪化

環境基盤の重視

環境を重視する視点から基盤を整備し、生態系全体の生産力の底上げをめざす。



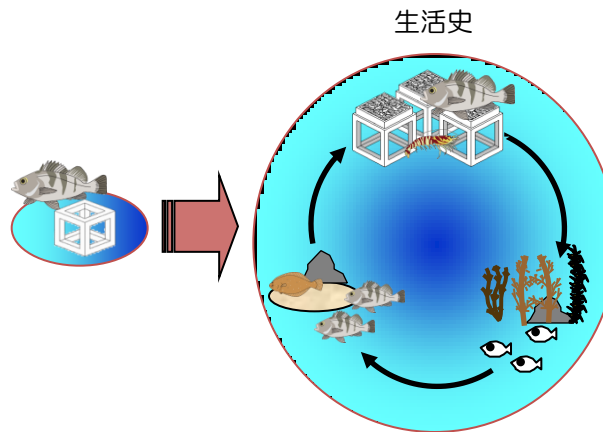
- ・ 森川海の物質循環の把握・正常化
- ・ 藻場・干潟の保全・造成、底質改善
- ・ 漁港等の構造物の有効活用
- ・ 沖合域における湧昇流漁場の整備

水産環境整備とは

生態系全体の生産力の底上げをめざし、水産生物の動態、生活史に対応した良好な生息環境空間を創出する整備

点から空間へ

これまでの「点」的な考え方から、対象とする水産生物の動態、生活史を踏まえた生息環境空間として対象範囲を捉え直す。



- ・ 動態、生活史等を踏まえた整備範囲設定
- ・ 複数種類の水産生物を対象
- ・ 藻場・干潟、魚礁等の複合的な生息環境空間を整える

資源・環境変動への対応

資源や環境の変動を踏まえつつ、良好な状態を維持・保全していくための柔軟な整備・管理を行う。

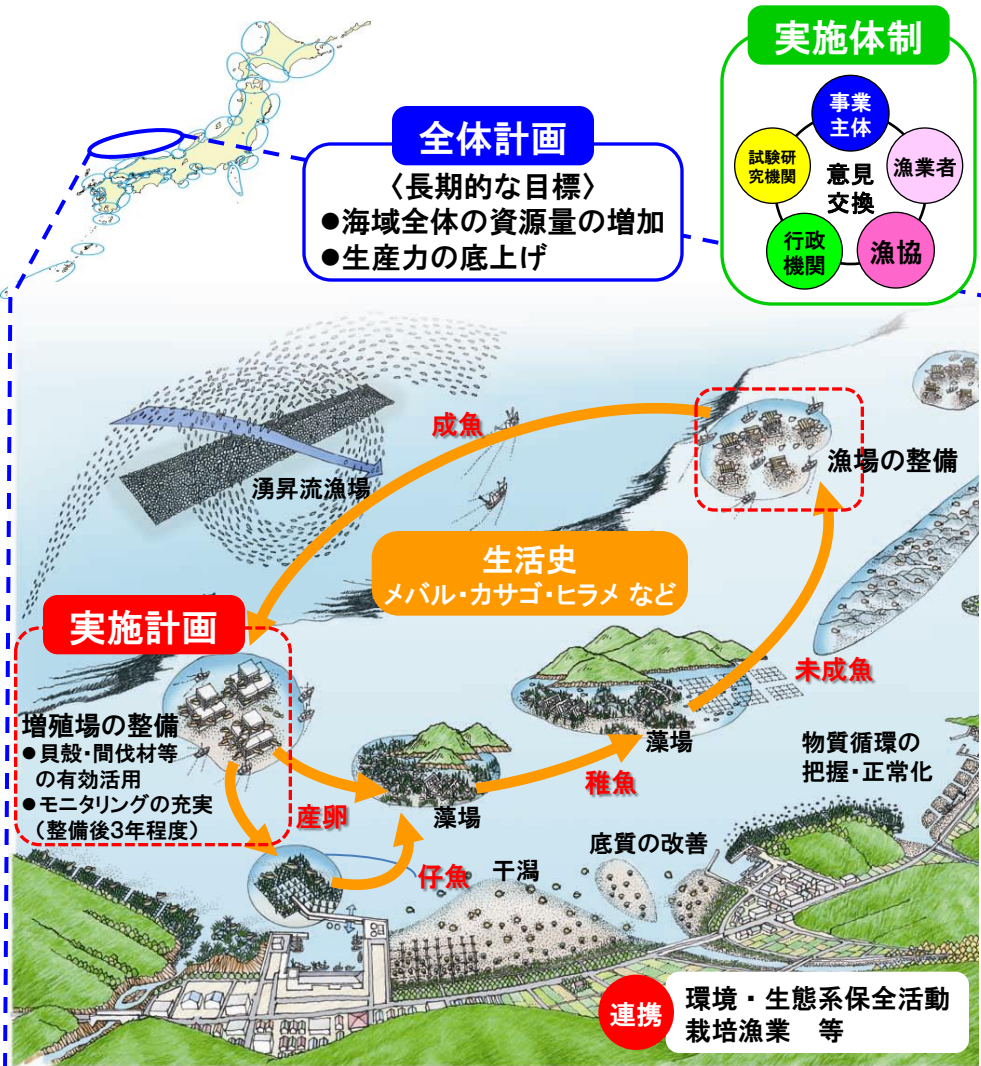


- ・ モニタリングの充実
- ・ 生息環境空間を実証実験の場に
- ・ 多様な主体の参画による維持管理体制の充実

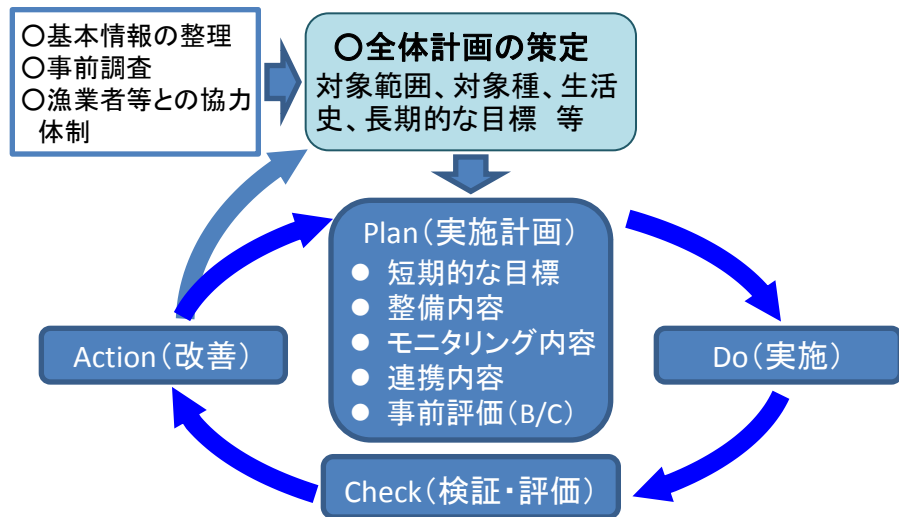
海域ごとにマスタープランを策定し、モニタリングを充実した事業の推進

水産環境整備の推進に向けて（計画づくりと事業推進）

生活史に着目したマスタープランづくり



事業の推進体系



水産環境整備の特徴（従来型との違い）

	従来型事業	水産環境整備
目標	対象魚種の漁獲増加量	生態系全体の生産力の底上げ
範囲	点（事業の実施箇所）	空間（湾、灘など生活史全体）
対象種	特定種（水産有用種）	複数種（生態系を構成する生物全体）
整備内容	魚礁、増殖場の整備等	生息環境空間の包括的な改善・修復・創出
評価方法	対象種の漁獲量 等	従来型の評価に加えて、生態系ピラミッドの他の階層に着目した評価（新たな評価手法の導入）

海洋・沿岸域における①水産資源の増大②豊かな生態系を維持・回復